

## 「トラフツバメエダシャク」

キノコの観察をするには、目当てのキノコのありそうな環境の場所に行き、あとは「勘」を頼りに自分で探すしかありません。例えば、サンコタケ (三鈷茸) なら腐葉土のある広葉樹林、ツキヨタケ (月夜茸) なら立ち枯れたブナ、ヤケアトツムタケ (焼跡紡錘茸) ならたき火のあと・・・といった具合です。「当たり」をつけた場所で、実際に観察したい種を見つけた一瞬が、キノコ探しの魅力です。

蛾の観察では少し状況がちがいます。もちろん蛾の種類によって棲息している環境がちがいますが、夜間に灯火をつけておけば、相当に多くの種類が自分のほうから飛んできてくれます。北軽井沢のはずれにある私の (ボロい) 山荘にもたくさんの蛾が来ます。住人にとって、蛾はどちらかといえば厄介者ですが、観察対象としては非常に魅力的です。

今の時期に私の山荘の灯火に集まる蛾で、一番多いのはシャクガ (尺蛾) の仲間です。似たような形・色のものが多く、同定は難しいです。しかし、特徴がはっきりしていてしかも美しい「蛾の初心者向き」のシャクガもいます。その一つが「トラフツバメエダシャク」です。



「トラフツバメエダシャク」 *Tristrophis veneris*

やや稀なシャクガですが、北軽井沢ではごく普通に見られます。いくつもの点で特徴がはっきりしているので、「シャクガの同定入門」には最適(?)の種類です。

何百何千種類もある蛾に、適切な和名を与えるのは大変なことだろうと思います。なるべく短い名称の中に、その蛾の特徴を表現し、他種の和名と重複させないようにするのは、大変な苦労だと思います。また、カタカナ表記された和名から、意味や特徴を解釈するほうにも相応の国語力が必要です。この蛾の和名も特徴を簡潔に表しています。

「トラフツバメエダシャク」は漢字では「虎斑燕枝尺」となります。「虎のような文様を持ち、翅の縁が燕の尾のような、エダシャク亜科の蛾。」と読み取れます。前翅に虎のような模様、後翅の後端がとがっています。しかも特徴的なオレンジ色の斑があるので、他種と見間違えることはまずありません。夏の高原を旅行されたら、是非この美しい蛾を探してみてください。



「蛾の静止姿勢」 蛾の種類によって静止姿勢（前翅と後翅の角度や重ね方）はちがいます。静止姿勢の時に、前翅と後翅の模様が連続する種類が多いのが面白いです。図鑑に載っている写真は、静止姿勢ではなく展翅した状態が多いので、同定には注意が必要です。この蛾に自分で名前をつけるとしたら「ミスジツマジロチャエダシャク（三筋棲白茶枝尺）」。

（お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋）